

実務担当者会議報告

平成 20 年度カルチャーコレクション実務担当者会議 —「微生物材料の受入から配布まで、特に 『同定・信頼性・安全性』の確保について」—報告

日本微生物資源学会

実務担当者会議・世話人代表

高島昌子

(独立行政法人理化学研究所 バイオリソースセンター 微生物材料開発室)

平成 20 年度の実務担当者会議は第 14 回日本微生物資源学会大会期間中の平成 20 年 6 月 30 日 13 時より 14 時 30 分まで、千葉大学・けやき会館において開催された。会議には機関会員 13 機関から、オブザーバーを含めて 44 名が参加した。

今回は「微生物材料の受入から配布まで、特に『同定・信頼性・安全性』の確保について」をテーマとして議論を行った。微生物系統保存機関では、株毎の確実な『同定・信頼性・安全性』が重要で、寄託・保存される多様な微生物株に対して、当該の株の受入から配布に至るまでの間、いかにしてこれを確保するかを目的として取り上げた。

会議では、以下の講師の方々に話題提供をお願いした。

演題 1：安全性（特に BSL2）に関することについて

千葉大学真菌医学研究センター 教授 亀井克彦

演題 2：生物遺伝資源の安全な取り扱いに関する NBRC の取り組み

製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジー本部生物遺伝資源部門 主査 川崎浩子

演題 3：JCM 保有 *Lactobacillus* 属菌株の品質管理

理化学研究所バイオリソースセンター微生物材料開発室 協力研究員 北原真樹

各講演の後、出席者との質疑応答が活発に行われ、貴重な情報交換の場となった。これらの質疑応答については抜粋をそれぞれの話題のページの最後の部分に加えさせていただいた。また、三講演が終了後の総合討論における質疑応答の内容を、以下にご紹介する。これらの情報が、各機関の微生物株の品質管理に活用されれば幸いである。

<総合討論>

Q：新種の受け入れに際し、NBRC での BSL の取り扱いは？ BSL2 にはしないのか？

A：分離源・寄託者からの情報等に基づいて判断する。BSL1 になることも多い。

Q：MAFF では「植物病原性微生物の取り扱い指針」を遵守しているが、植物を含めたバイオセーフティー

に取り組んでいる CC は他にあるのか？

A：NBRC としての独自の指針は現在なし。

A：環境に対する影響まで考えに入れると大きな問題となる可能性がある。まずは植物防疫法に従って、その上での対応ということになるろう。

A：こちらからも植物防疫の側に情報提供を行っているし、実際そうした取り組みは必要である。

A：植防の立場としては、日本に入ってくるものについてのコントロール機関であるから、元から日本の中にある微生物については、我々から情報発信・注意喚起を行っていく姿勢が必要と考える。
